

⑫ 公開特許公報(A)

昭62-55767

⑤ Int. Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 昭和62年(1987)3月11日

G 06 F 15/40
G 11 B 27/00C-7313-5B
A-6507-5D

審査請求 未請求 発明の数 1 (全6頁)

⑭ 発明の名称 電子カタログ装置

⑮ 特 願 昭60-195225

⑯ 出 願 昭60(1985)9月3日

⑰ 発 明 者	堀 上	江 一	門真市大字門真1006番地	松下電器産業株式会社内
⑰ 発 明 者	高 橋	賢 一	門真市大字門真1006番地	松下電器産業株式会社内
⑰ 発 明 者	亀 田	啓 一	門真市大字門真1006番地	松下電器産業株式会社内
⑰ 発 明 者	飯 塚	裕 之	門真市大字門真1006番地	松下電器産業株式会社内
⑰ 出 願 人	松下電器産業株式会社			門真市大字門真1006番地
⑰ 代 理 人	弁理士 森本 義弘			

明 細 書

1. 発明の名称

電子カタログ装置

2. 特許請求の範囲

1. 文字情報、画像情報、音響情報の少なくとも1つの情報と前記情報のアドレスを管理する管理情報を各々の属性とともに記録した記憶手段と、この記憶手段のうちの特定情報を指定する入力手段と、この入力手段により指定された前記特定情報を前記管理情報を用いて前記記憶手段より出力させる制御手段と、記憶手段より出力された前記特定情報をその属性に応じて行き先を選択する選択手段と、この選択手段より選択され前記特定情報をその属性に応じて処理する1つまたは複数の処理手段と、この処理手段の出力に接続され前記特定情報を出力する1つまたは複数の出力手段とを設けた電子カタログ装置。

2. 記憶手段に文字情報、画像情報、音響情報を記憶させると共に前記文字情報をコード情

報として記録し、前記文字情報を可変長データとして処理するようにしたことを特徴とする特許請求の範囲第1項記載の電子カタログ装置。

3. 文字情報を特定する特定情報として、文字情報のデータ長を管理情報に付加し、可変長の文字情報を容易に処理できるようにしたことを特徴とする特許請求の範囲第2項記載の電子カタログ装置。

4. 記憶手段として、音響情報をデジタル信号として記録し時間軸上で一定間隔で連続的に出力できる記憶媒体を用い、音響情報を記憶できる領域に、文字情報、画像情報、音響情報および管理情報をその属性とともに、同期信号、アドレス信号を付加して記録したことを特徴とする特許請求の範囲第1項記載の電子カタログ装置。

5. 記憶手段内に記憶しておく文字情報、画像情報、音響情報の各々の記憶アドレスを管理する管理情報として、アドレスとともに前記

文字情報、画像情報、音響情報のおおのの情報を特定する1つまたは複数の特定情報を付加したことを特徴とする特許請求の範囲第1項記載の電子カタログ装置。

6. 文字情報、画像情報、音響情報の各々の情報をその属性に応じて処理する各々の処理手段が、前記各々の情報の属性に応じて処理する処理情報を前もって記憶しておくことを特徴とする特許請求の範囲第1項記載の電子カタログ装置。

7. 文字情報、画像情報、音響情報の各々の情報を選択的に処理する各々の処理手段の処理情報を、管理情報として記憶手段に記憶しておき、前記処理情報を前記各々の処理手段に送って処理可能となることを特徴とする特許請求の範囲第1項記載の電子カタログ装置。

3. 発明の詳細な説明

産業上の利用分野

本発明は大量のカタログ情報の中から所望する情報を容易に検索できるようにした電子カタログ

装置に関する。

従来の技術

近年、情報化社会と呼ばれる中で製品開発技術の向上、ニーズの細分化等により、製品情報はますます増大していつている。このような中で種々の情報の中から、所望する製品情報を得るために従来よりカタログ本が利用されてきているが、上記製品の細分化、用途の多様化、多機能化等により、カタログ本の情報量は一般に非常に多くなってきており、カタログ本の分冊化、詳細情報の別冊化等の対応がなされている。そのため、各種ニーズを満足した製品情報をカタログ本から得ることは莫大な手間と時間を必要とする方向に徐々に向っていると云えよう。さらに、そうして得られた製品情報がニーズに対して最適なものであるかどうかは、情報を得ようとする側がカタログ本を如何に利用するか依存して判断せざるを得ない。

以上のようなカタログ本の大規模化と検索の複雑化に対して、カタログデータの記憶装置としてフロッピーディスク装置を用いたシステムを考え

てみる。

第4図において、31はシステム制御装置、32はフロッピーディスク装置、33は文字、グラフィックの表示装置、34は入力装置、35は画像処理装置、36は画像表示装置である。この第4図のシステムのうち、31～34については従来のパーソナルコンピュータシステムに見られる構成であり、個々の機能も同様のものであるから説明は省略する。画像処理装置35はフロッピーディスク装置32内の画像データを画像表示装置36に表示させるために必要な処理を行なうものであり、一般にフレームメモリとも言われる。以下に動作を簡単に説明する。まず、システム制御装置31内の制御情報（以下、プログラムと称す）によって表示装置33上に表示された選択情報から入力装置34を用いて選択すると、プログラムは所望する情報をフロッピーディスク装置32から出力し、その情報が文字、グラフィックであれば表示装置33に、また画像情報であれば画像処理装置35を介して画像表示装置36に表示させる。本システムにおいては、上記選択情報

の設定、例えば条件選択等の工夫により最適情報を容易に得ることが可能である。

発明が解決しようとする問題点

しかしながら画像データを処理する場合、1画面サイズを横512ドット、縦480ラインでR、G、B各8ビットとするとデータ量は約750Kバイト、データ圧縮処理を行なって200Kバイトであったとしても、1メガバイトフロッピー1枚で5画面分しか処理できない。

最近のカタログ本では、文字だけでなく写真が多く使われており、システムとしても大量の画像が扱えることが必要であるが、上記システムで例えば200枚の画像を処理するにはフロッピーディスクが40枚にもなり、大量データの検索には非常に複雑なシステムとなる。データ記録媒体としてフロッピーディスクの代りに固定ディスクを用いることも可能であり、ディスク容量を大きくすればする程、上記大量データ検索の複雑さは軽減されるが、装置そのものの大規模化がシステムの簡便性、コスト等の面から問題となってくる。

上記の例では、文字、画像のような視覚情報のみを扱ったが、フロッピーディスク装置あるいは固定ディスク装置で音声情報を扱おうとすれば、圧縮データ処理、時間軸補正等が必要であり、長時間データの処理には制御装置内メモリ容量の大規模化をとまなうことなどから、音声の実時間再生は困難である。

本発明は大量の文字、画像情報を簡単に検索でき、またこれら視覚手段だけでなく聴覚手段をも用いて、より多くの情報を得ることができる電子カタログ装置を提供することを目的とする。

問題点を解決するための手段

本発明の電子カタログ装置は、文字情報、画像情報、音響情報の少なくとも1つの情報と前記情報のアドレスを管理する管理情報を各々の属性とともに記録した記憶手段と、この記憶手段のうちの特定情報を指定する入力手段と、この入力手段により指定された前記特定情報を前記管理情報を用いて前記記憶手段より出力させる制御手段と、記憶手段より出力された前記特定情報をその属性

に応じて行き先を選択する選択手段と、この選択手段より選択され前記特定情報をその属性に応じて処理する1つまたは複数の処理手段と、この処理手段の出力に接続され前記特定情報を出力する1つまたは複数の出力手段とを設けたことを特徴とする。

作用

この構成によると、ディジタルデータと属性とを記録手段に記憶し、特定情報により前記記憶手段から抽出したディジタルデータをその属性に応じて選択手段で行き先を選択して処理するため、前記記憶手段として例えばディジタル・オーディオ・ディスクを用いると大量の文字、画像処理および実時間音響処理できる。

実施例

以下、本発明の電子カタログ装置の一実施例を図面を参照しながら説明する。

第1図は本発明の電子カタログ装置のブロック図で、11は制御手段、12は記憶手段、13は選択手段、14A、14B、14Cはおのおの第1～第3の処

理手段、15A、15B、15Cは第1～第3の処理手段に対応する第1～第3の出力手段、16は入力手段である。

次に動作に基づいて第1図構成を詳細に説明する。第1図において、入力手段16より入力された選択情報により制御手段11は、記憶手段12から所望する情報を出力させ、選択手段13に入力される。選択手段13では、第2図に示したフォーマットの記憶情報のうちの属性情報により、処理手段14A～14Cのうちの1つを選択し、選択された処理手段にデータを送出する。データが入力された処理手段では、その属性毎の処理を行ない、出力手段15A～15Cのうちのその処理手段に対応する出力手段に出力される。

以上、その動作を簡単に説明したが、次に第3図の具体例に基づいて動作を説明する。

第3図において、20は制御装置21と文字情報処理装置22及びキーボード23からなるパーソナルコンピュータ、24はディジタルデータ記憶媒体であるディジタル・オーディオ・ディスク（以下、D

ADと称す）、25はDAD24を直接制御して記録データを再生するDADプレーヤ、25AはDADプレーヤ25に内蔵された選択回路、26は同じくDADプレーヤ25に内蔵された音響情報処理手段としてのディジタル・アナログ変換器、27は画像情報処理手段としてのフレームメモリ、28は音響情報出力手段としてのスピーカ、29は画像情報出力手段としての画像ディスプレイ、30は文字情報出力手段としてのキャラクタディスプレイを示す。

この様に構成された第3図の具体例についてその動作を説明する。今、DAD24内にはカタログの製品毎に文字情報、画像情報、音響情報のうち少なくとも1つの情報が記録されており、又それら製品情報の記録アドレス及びデータサイズ及び製品毎の分類情報、例えば種別、価格分類、機能分類等の情報からなる管理情報も記録されているとする。又、制御装置21にはシステム制御情報（以下、プログラムと称す）が記憶されているとする。制御装置21においてプログラムが起動され、キャラクタディスプレイ30に第1の選択情報が表

示されるところから説明する。第1の選択情報に基づき、次の手順の指示情報をキーボード23より入力する。入力された指示情報に従って制御装置21は第2の選択情報をキャラクタディスプレイ30に表示し、順次同様の手順で最終製品情報をD A D 24より再生して所望の情報を文字、画像、音響のうち少なくとも1つの情報を出力することによって得ることができる。

次に電子カタログとしての動作を説明する。一般にカタログ本の情報の属性としては、文字、写真、表及び索引に分けられる。今、D A D 24内には1つの製品（又は部品）に対して、文字、画像、音響の各属性をもった情報が記憶されているとする。又、各製品情報の記憶アドレスとともに各製品を特徴付ける情報として、機種分類、性能分類、価格分類の各情報を管理情報として記憶しておく。例えば、機種分類として(A)(B)(C)、性能分類として2項目で3種類の(a1)(a2)(a3)、(b1)(b2)(b3)、価格分類として(I)(II)(III)に分類されているとする。

音響などの各属性により、記憶手段12より出力されたデータをそれぞれの処理手段に直接送ることにより最適処理が可能である。特に音響情報においては、実時間で出力することが可能である。又、記憶媒体としてD A D 24を用いることにより、フロッピーディスクの500倍の500メガバイト以上のデータを扱うことが可能であり、さらに管理情報に各情報のデータ値を格納しておくことにより、文字、音響および種々のサイズの画像情報等を可変長データとして扱うことが容易に可能となる。

なお、第2図では記憶手段としてD A D 24とD A D プレーヤ25を用いたが、記憶手段としてはD A D とD A D プレーヤから構成される場合に限定されるものではなく、デジタル情報をその属性とともに記憶でき、音響情報を実時間で出力できるものであれば何でもよい。例えばデジタル・オーディオ・テープ〔以下D A T と称す〕とD A T プレーヤを用いることもできる。

また、第2図では記憶手段を制御できる制御装置としてパーソナルコンピュータ20を用いたが、

まず、キャラクタディスプレイ30に示された第1の選択画面情報により、機種分類(A)(B)(C)のうちの所望の製品に適合する(A)をキーボード23から入力する。次に第2の選択画面情報により、2項目の性能分類の(a1)~(a3)と(b1)~(b3)のうちの所望の製品に適合する(a1)と(b1)をキーボード23から入力する。次に第3の選択画面情報により、価格分類(I)(II)(III)のうちの所望の製品に適合する(I)をキーボード23から入力する。以上の入力操作により、制御装置21はD A D 24内の管理情報を検索し、上記条件の機種(A)、性能分類(a1)(b1)、価格分類(I)を満足する製品の製品情報アドレスを取り込む。所望製品の製品情報アドレスを取り込んだ制御装置21はそのアドレス情報に基づいて所望の製品情報を、文字、画像、音響の各属性毎に各々の処理手段を介して出力する。上記条件を満足する製品が複数ある場合には、複数の製品選択情報を表示することによって特定製品情報を得ることが可能である。

以上のように本具体例によれば、文字、画像、

記憶手段を制御できる装置であれば何でもよい。更に、入力手段としてキーボード33を用いたが、タブレット、タッチパネル、ジョイスティック等あらゆるものを用いることができる。

また、出力手段として、キャラクタディスプレイ、画像ディスプレイ、スピーカを考えたが、これに限るものではない。例えば、文字、画像情報の出力手段としてプリンタを用いることも可能であり、音響情報の出力手段として各種録音機を用いることも可能である。

更に、前記具体例では処理方法を前もって記憶してある各々の処理手段を用いたが、各情報の属性あるいは管理情報に従って最適の処理方法を記憶手段より読み出して処理手段に送ることにより、処理可能ならしめることも可能であって、この場合には同一の電子カタログ装置を用いて種々の電子カタログを実現することが出来る。

発明の効果

以上説明のように本発明の電子カタログ装置は、記憶手段に文字、画像、音響の少なくとも1つの

情報とその管理情報を各々の属性とともに記憶しておき、入力手段によって出力すべき情報を指定すると、管理情報を用いることにより、特定情報をその属性とともに出力し、選択手段を介して属性に応じた最適の処理を処理手段で行うことができ、各処理手段における処理が容易に行なえるように前処理を施したデータを記憶手段に記憶しておくことが可能であり、各処理手段の構成も簡単になるという効果が得られる。

前記記憶手段として、音響信号をディジタル信号として記録できる時間軸上で一定間隔で連続的に出力することのできる記憶媒体を用いることにより、時間軸補正のための記憶回路を必要とすることなく音響情報を実時間で長時間再生することができるという効果も得られる。更に量子化ビット数、サンプリング周波数を低減することによって音質を下げる代りに、再生時間の増加をもたらすことも可能である。

前記記憶手段には、可変長のディジタルデータを記憶しておくことが可能であり、例えば画像デ

ータを任意の圧縮処理を施して記憶することも可能である。

更に、管理情報として各種製品の分類情報を任意に設定しておくことにより、各種の条件から所望する製品情報を得るような条件検索ができるという効果が得られる。

前記処理手段における処理情報を記憶媒体に記憶しておくことにより、同一の電子カタログ装置を用いて種々の電子カタログを実現することが可能となる。

4. 図面の簡単な説明

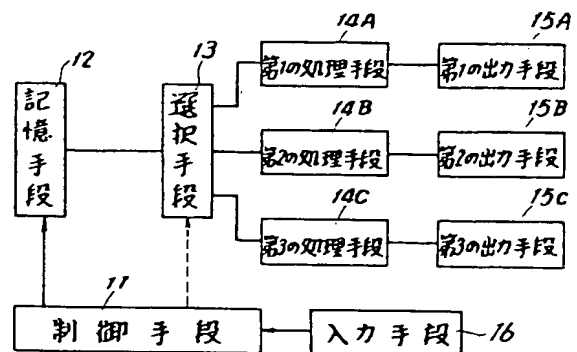
第1図は本発明の電子カタログ装置の一実施例のブロック図、第2図は第1図における各記憶情報のフォーマット図、第3図は第1図の具体構成図、第4図は従来の構成図である。

11…制御手段、12…記憶手段、13…選択手段、14A、14B、14C…処理手段、15A、15B、15C…出力手段、16…入力手段、20…パーソナルコンピュータ、23…キーボード、24…D/A、25…D/A Dプレーヤ、26…ディジタル・アナログ変換器、

27…フレームメモリ、28…スピーカ、29…画像ディスプレイ、30…キャラクタディスプレイ

代理人 森 本 義 弘

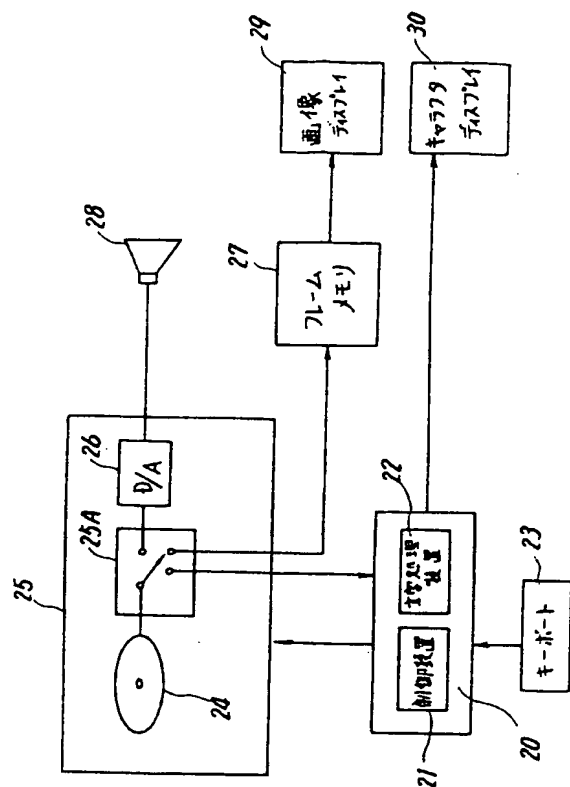
第1図



第2図

属性	データ
----	-----

第三



第 4 図

